

日中韓三カ国合同環境研修（第1回）の実施について

1. 本研修実施までの背景

日中韓の三カ国は、大気・水・野生生物などの環境を共有している。環境問題が国境を越えて広がっている現在、三カ国が協力してその解決に取り組むことが不可欠である。また、地球規模の環境問題への取り組みに関しても、アジア地域の立場を明確に主張していくためには、アジアの中核であるこの三カ国が、共通のビジョンを作って議論に臨むことがますます重要になっている。

そういった共通認識に立って、三年前から日中韓三カ国環境大臣会合が始まり、大臣レベルでの真剣な議論がされるようになった。その会合の中で、「環境共同体意識の向上」が優先取組分野の一つとして合意された。

2. 本研修の目的

本研修は、「環境共同体意識の向上」の実現のための具体的事業として、三カ国それぞれの環境行政を担う行政官が、三カ国の環境の現状、課題、対策等について情報や認識を共有することを促進するものである。具体的には以下の4項目が挙げられる。

日常の業務とは異なる視点から自国の環境の状況を見ること

近隣国の環境問題の状況を理解すること

三カ国に共通な問題について認識するとともに、その解決に向けての方策のアイデアを作成すること

三カ国の研修員間の親睦を図ること

なお、本研修は毎年、各国が持ち回りで実施することになっている。2001年の第1回研修は日本国が主催し、環境研修センターで実施した。2002年は韓国で実施される予定である。

3. 第1回合同環境研修の概要

第1回研修は、中国及び韓国の関係機関の全面的な協力を得て、2001年11月27日から12月4日までの8日間にわたり、所沢市にある環境研修センターで実施した（ただし、研修は土曜日を除く7日間実施）。なお、12月2日及び3日は箱根・川崎方面の視察を行った。研修員は、日本から10名（環境省5名、地方公共団体5名）、中国、韓国からそれぞれ5名ずつが参加した。

研修は、三カ国の環境行政の組織のあり方、淡水域の水質汚染の現状と課題、そして三カ国が直面している課題等について実施した。なお、研修はすべて英語で行われた。また、研修終了後の12月5日には川口環境大臣を表敬訪問した。

4. まとめ

今回の研修は、実務者レベルでの研修の第1回として実施したが、上記の事項に関する日中韓の講師による講義と研修員による討議等を通じて、三カ国の環境の現状と対策、課題についての共通の認識が形成され、そして何よりも、それぞれの国で環境行政に従事している公務員相互の交流と意思の疎通が図られたことに大きな成果があったものと考えている。

また、それぞれの研修員には、今回三カ国の協力を進めるための各国の代表として参加されたのであるから、この研修の成果を活かし、今後も日中韓三カ国の環境行政の橋渡しとして活躍されることを期待する。